

1 研究主題

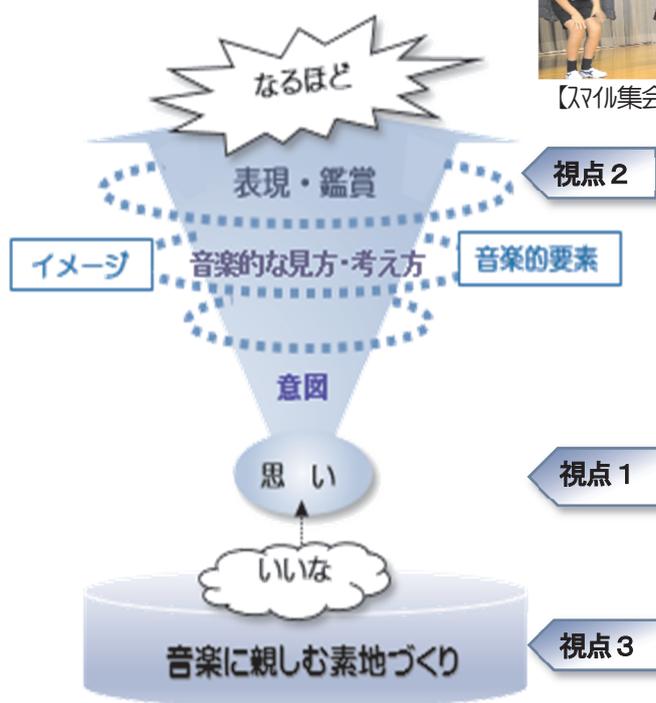


「思い」をもって、音楽を楽しむ子どもの育成
 — 子どもが「いいな」から「なるほど」へ向かう授業づくりを目指して —

2 研究の具体

- 本校では、子どもの「いいな」や「なるほど」という感性をもった内言をキーワードとし、子どもの「思い」に寄り添った授業を目指すことで、「学び」とそこから得る「楽しさ」を実感できると考えて、研究主題を設定した。

研究構想図と研究の視点



【双仙集会：ボディパーカッション】



【4年：お雛子の音楽づくり】

視点2 音楽的な見方・考え方を働かせる支援の在り方

- 音や音楽の出会わせ方を工夫し、子どもたちの「いいな」と、学ばせたい音楽的要素をつなぐ
- 観点を明確にし、自分の表現と比較することで、「思い」に気付かせる

「いいな」を起点として「思い」をもたせる学習指導の在り方

- 「いいな」から「なるほど」へと向かう過程で、子どもが音楽的な見方・考え方を働かせるための支援の工夫

音楽に親しむ素地づくりの充実

- 音楽の授業と常時活動、全校音楽活動、学校行事をつなぐことで、子どもが「音楽を楽しい」と感じる素地を育む

3 研究の検証及び改善の手立て

- 児童の実態をR5年2月（80名）と7月（68名）に実施した「音楽に関する意識調査」で比較すると、音楽の授業が「とても好き・好き」と肯定的に回答した児童が10%増加し、「あまり好きではない・好きではない」と否定的に回答した児童は減少している。また、音楽の授業が「とても楽しい・楽しい」と肯定的に回答した児童も4%増加した。これは、子どもが「いいな」から「なるほど」へ向かう授業づくりを目指して授業改善を行ったことで、音楽の授業の際に、表現することを楽しんだり、よりよい表現を目指して工夫したりする児童が増えたからであると考えられる。思いや意図をもって、表現する場やそれを聴き合う経験を増やし、音楽的な見方・考え方を働かせることで、音楽のよさや楽しさを感じ、音楽に対する意識を高め、音楽の授業を好む児童の増加につながったと考えられる。
- 「歌うことが苦手だから」「リコーダーが難しい」等、技能面で苦手意識をもっている児童も20%程度いる。表現する場が増え、「もっとこんなふうに演奏したい」という思いをもつことができるようになった反面、自分が思うように歌えない、演奏できないと感じている児童がいるということである。技能面でも達成感を味わえるよう、教科書教材だけでなく簡単な楽曲から練習することや、朝の会で常時活動として練習時間を確保するなど、スモールステップでの取り組みを考え、意欲とともに技能も高める指導を継続していきたい。